

EGGPLANT

ホームスクール通信 エッグプラント

Nファミリー

2012.8.1

No.96

以前にここに書いたS姉妹が先日亡くなられました。余命が医者から一、二ヶ月と宣告されていましたが、実際には七か月命が保たれたこととなります。医学的に見ればこれは奇跡的なことです。最先端の治療の手を尽くした後になされた余命宣告を遥かに超えたからです。

ところがそれ以上に周りの人々を驚かせたのは、痛みが続き、肉体的に辛い時が続いたにも関わらず、心はとても落ち着き、人々を励ましてきたことです。昨年十一月に聖書の福音をはっきり受け入れられ、この命が神によって支えられ、何かしらの生きる目的を与えられていると信じていたのです。

「私たちは、自分の見たこと、また聞いたことを話さわけにはいきません。」(使徒四章二十節)

私は亡くなるまで三回、彼女に会いました。そして確かに彼女を支えていた信仰の結果を見せられました。キリスト者とは「証人」です。自分が見たこと、聞いたこと、経験したことを皆さんに紹介するのです。

以下の文章は、私よりもっと身近におられてS姉妹と交わりをされたM集會の方のものです。

「彼女は短い期間に十字架を自分のものとして受け入れて、神の子供とされる特権を与えら



生きて働く確かな信仰

れ、キリストを愛し、自分よりも周囲のことを考える人であった。兄弟姉妹の交わりの中にも人のことを考えて励ます人であった。短期間であっても、死を前にした病人であって、力がなくても、神様を頼って生きていた。そこに、クリスチャンの人生としては短かったが、非常に素晴らしい信仰を私たちに見せてくださった。私たちは奇跡を見たし、彼女の証が素晴らしく神様の御栄光が表されていた。神様が、S姉妹と共にいてくださったのを私たちは感じた。」

聖書の中にはイエス・キリストがなした多くの奇蹟がでてきます。嵐が突然静まったり、わずかな食物が増えたり、中でも多いのが病気の癒しです。そう聞くと多くの人は疑問を抱くのです。「どうしてS姉妹の場合は治らなかつたのか？」と。ただ、聖書全体を見ると、偉大な神の聖徒がいつも癒しをおこなったわけではありません。イエスといえどもその時代の病気をすべて完全に癒したわけではないのです。イエスが成した奇蹟は「自分が本当の救い主であることを示すため」のしるしでした。病気の癒しを祈りますが、癒されることがすべての問題解決にならないということ私たちは心得ています。

どの時代でも人間は病と闘ってきました。医学の発達によって先延ばしには成功したかもしれません。しかし、最終的には死に対して人

間は敗北し続けてきたのです。

しかし、その人間の敵である「死」を滅ぼすために来られたのがイエスです。どのようにしてでしょうか？まず、特別な人間としてマリヤの胎を通してこの地上に生まれてくださいました。そして、人間の罪のために身代わりの死を遂げました。イエスは唯一罪と関わりのない人間であり、死ぬ必要がないにもかかわらず、人間の罪のゆえに十字架にかかられたのです。特別な死を経験された方は、死んだ後も特別でした。死後三日たつてから、新しいいのちが与えられ、墓を突き破つてよみがえられました。これはすべて旧約聖書に預言されていたことでした。

イエスの復活によって人間は死後、新しいいのちを得る可能性があることが証明されたのです。このイエスを救い主として受け入れるとき、人は罪が赦され、この肉体は死を迎えても、魂は滅びを免れ、永遠のいのちを得ると約束されているのです。

S姉妹はこの福音を信じ受け入れました。死への不安から「藁をもつかんだのでは」と思われるかもしれませんが、確かに最初は深い聖書の知識を得る、体力も時間もありませんでした。しかし、医者予想を三倍以上超えて命を保たれ、その間に聖書のことを学び続けたのです。そして、この希望が単なる机上の空論や根拠のない慰めではないことを確認したのです。予想以上にいのちを支えられたのは本人がそのことを確信し、また「彼女は救いを明確に受けた」ということを私たちに教えるためだったのかもしれない。

ホームスクーラー同士の交流

N

ホームスクーラーと会う機会は一年に数回しかありません。しかし今年はその場がたくさんあったと思います。なぜなら家族で兵庫県に住んでいるホームスクーラーの家族を訪ねる機会があったからです。

先日、お邪魔させて頂いたときは、ボードゲームをしたり、デザートを囲んで交わったり、コストコに行ってみるなどで面白い物をしたりと一日があつという間に過ぎてしまいました。

「ホームスクーラーなら誰とでも友達になつて交わつても悪い影響は受けけないとは断言できない」とある人に言われたことを思い出しました。確かにホームスクールをしていても一人一人環境が違うので安心はできません。しかしこのAファミリーは本当に素晴らしい家族です。四人の子供たちは悩み事や相談があると両親に相談し、兄弟間の仲が良く、神様に対する純粋な信仰がしっかりとあることに感銘を受けました。私はこのファミリーから良い影響ばかり受けていると思いますし、何よりもAファミリーの歩みを見て、両親を尊敬することの大切さを教えてもらいました。

よく「家で勉強していると、同年代の友達と遊ぶ機会がないんじゃない？」と聞かれますが、私はそうは思いません。もちろん普通の子と比べて少ないかもしれませんが、少人数であつても心から信頼できる大切な友達が与えられています。

これからもそれぞれの家庭の活動報告をしたり、勉強においてもアドバイスし合つていけたりしたらいいなと思います。

こんなことしました！ 行事報告

七月

- 二日 A家訪問
- 五日 合同公文教室
- 十二日 映画「ソール・サーファー」鑑賞
- 十四日 お楽しみ会
- 二十四日 音楽教室
- 二十五～二十八日 富士山登山のキャンプ
- 二十七～二十八日 Sさんお泊り・長居プール



↑わかりにくいですが雲海です！

富士山登頂旅行

E

七月二十五日から二十八日まで富士山旅行に行ってきました。教会の三人の方といっしょに行きました。僕は今まで登山をしたことがなく、初めての登山旅行でした。

初めは、登山専用の靴やトレッキングポールといつて山登るときに使う杖などを買ったり、非常食などいろいろなものを用意したりしました。特に飲料水が問題で、熱中症対策のために水をたくさん持つていかなければなりません。またその水を背負って、登るのでとても大変でした。

富士山の登山道は四つあって、僕たちはその中の御殿場という道で行きました。当日、深夜一時に大阪を出発し七時間ほどかけて静岡県につきました。出発地点は五合目からでした。また登山病という空気がうすいのが原因で起こる病気があり、その対策として体を気圧にあわすため、またはトレーニングのためにまず小富士に登りました。その後富士山の頂上をめざして五合目から出発しました。ゆっくりしたペースで歩き、一日目は七合目の山小屋で泊まりました。

朝日を見るために深夜二時ごろに出発し、頂上を目指してまた登りました。やはり日本一の高さを誇る山なので、足が痛くなり、僕は少し登山病にかかってしまいました。そして朝日を見て頂上につきました。頂上では雲海も見ることができて本当にきれいでした。初めての登山でもしんどかったです。日本一の富士山に登れて本当によかったです。

編集後記

S姉妹召天の半月前、同じ集会で何度もS姉妹を見舞っておられた兄弟が突然召されました。夜のジョギング中に心筋梗塞を起こしたのです。S姉妹にもしものことがあつたら一番中心になつて動くはずだった兄弟です。S姉妹はその訃報を聞いて「自分のことばかり考えていて申し訳なかった」とおっしゃっていたそうです。二人は今、共に神の心とこころです…。